



劣後ローンって？

◆資本とみなされる融資／コロナ禍で注目高まる

Q－劣後ローンって何のこと。

A－「劣後」という言葉は、普段の生活ではあまり耳にしない表現かもしれないですね。このローンは金融機関などからの借り入れ手段の一種です。企業が破たんした際に通常の債務弁済後の資産を返済に充てる点が特徴で、資本に近い扱いとされます。返済する順番が後回しに（劣後）されることから、この名前で呼ばれています。

Q－関心が高まっているの。

A－新型コロナ対策のために政府系金融機関などで取り扱いが始まっています。去年はANAホールディングスが日本政策投資銀行などから合計4千億円の劣後ローンによって資金を調達することが大きな話題になりました。

Q－大企業だけが対象かな。

A－いいえ、中小企業にとっても重要です。借り手にとっての大きなメリットは、劣後ローンによる資金調達が資本の増強に近い性格を持つので、財務基盤が安定したと見なされ、金融機関の評価を高めることができることです。長期的、安定的に資金調達できることから、資金繰りの安定にもつながります。コロナ禍で資金調達に不安を抱える中小企業にとって心強い制度と言えるでしょう。

Q－県内の動きはどうかしら。

A－日本政策金融公庫が昨年8月から資本性劣後ローンの受け付けを開始し、県内では開始2カ月余りで7件の申請があったとのこと。また、融資の内容ごとに地域の金融機関との連携が増えており、北陸銀行との連携プラン「Be With（ビーウィズ）」がスタートしました。

国は新型コロナで業績が悪化した企業を支援するため実質無利子の制度融資など多様な借り入れの仕組みを用意していますが、負債の増加には慎重になる企業もあります。そこで資本に近い性格を持つ劣後ローンによって企業を支援する動きも必要になっているのです。

（北陸経済研究所の辻野秀信が解説しました。）

企業のバランシート

